

フィリピン国内フェリー 2GO トラベル

元阪九フェリー やまと 乗船記

近藤貴行

2026 年 1 月に、フィリピンのイロイロ～バコロド～マニラを、元阪九フェリーのやまと（2003 年三菱重工建造）である 2GO トラベルの、2GO Maligaya（マリガヤ）に乗船した。

今航は、19 時にイロイロを出港、バコロドには当日 23 時入港翌日 6 時に出港、マニラには翌々日の 1 時 30 分に到着の 30 時間 30 分の 2 泊 3 日の航海となる。なお航海としては、往路はマニラ発イロイロ経由のバコロド行き、復路はバコロド発マニラ行の直行便であるが、私は乗船時間が長いほうが良いのでイロイロから乗船した。イロイロとバコロドは、高速船で 90 分程度の距離である。

① 予約・乗船

今回はダイレクトフェリーからネット予約してみた。

料金はダイレクトフェリーの手数料 936 円込みで、9261 円。

ターミナルには、町なかのホテルから歩いていった。ただし 1 月でも暑いので、汗だくになる。待合室には 14 時 20 分に到着して待っていると、すぐに船が入港してきた。船は待合室の真ん前に着岸する。ただし待合室はマニラと違い、店はなくひたすら座って待つことになる。17 時 20 分ごろから乗船が始まったのだが、イロイロでは、他の港のようにターミナルに入る際に荷物を X 線に通すだけではなく、麻薬犬を使ったり係員が身体検査を行なった。

乗船は右舷の舷側のギャングウェイで階段を登る。

② 車両甲板

ランプは右舷前方と後方の 2 力所を使用。荷役風景を見ていた限り、1 台大型 トラックを見た以外は、コンテナのみ。掲示板には、バイクや車も運べるような記載があったが、まったく見ない。

③ 旅客設備の配置

旅客設備自体は、日本時代の 4.3.2 階から現在の 7.6.5 デッキの 3 層なのは同じである。7 デッキは、日本時代の大浴場の後ろは展望デッキだったが、ハウスが増築されている。ただし旅客設備ではなく、中は大きなホールのような、がらんどうになっており作業場に使っていた。大浴場はトイレとシャワールームに改装されていたが、シャンプー類や、備え付けのトイレットペーパーもない。

また屋外デッキは、日本時代の展望デッキの部分のみのため、ハウスが増築されている分、狭くなっている。また屋外デッキは、元ブルーダイヤモンドと異なり夜間は閉鎖されている。

またブルーダイヤモンドと違い、椅子席は見なかつた。

フィリピンに売却されたのは 5 年前だが、船内に残っている日本語は、それほど多くなかつた。

④ 乗組員

クルーズ客船と同じく、フィリピンクルーはよく働いており、船内の清掃には気を使っていた。ただしトイレがシャワールームと同じ場所は、床が濡れていた。サービスクルーは女性が半数近くいたようだ。

今航は「○○○○ インターナショナル マリタイム アカデミー」と書かれた制服を着た、海事学校らしき学生が 100 人近くほどだろうか乗船していたが、女性は 1~2 割くらい。

⑤ キャビン

この船では、キャビンは上から、ステートルーム、ビジネスクラス、ツーリスト、メガバリューの 4 タイプのみ。ビジネスクラス以上は、日本時代はグリルだったホライゾンカフェでの食事が付いている。

今回はビジネスクラスの 4 人部屋（相部屋）を選択。日本時代は 2 等指定 B の部屋で、当時のままで使われている。ベッドごとのカーテンと枕元灯やコンセントもそのままだ。ただしシーツ付きのマットレスや枕はあるが、掛け布団の類はない。キャビンもそうだが船内は冷房が効き過ぎで、船内にあちこち追加で設置されているエアコン設定は 18°C になっている。また日本時代の一人部屋の 2 等指定 A は、同じビジネスクラスだが 2 段ベッドに変えて 2 人部屋になっていた。かつてのドライバールームも、シングルレベルの代わりに 2 段ベッドをいれて、ツーリストになっている。

⑥ メンテナンス

内装については、かなりきれいに保たれていて掃除もよくやっていた。内装自体がポップな感じに改装されているので、気持ちがいい。外部デッキも、サビもたいして見受けられない。救命いかだは建造当初のものが残っている。

⑦ レストラン

日本時代（就航時）はグリルが 32 席、レストランが 140 席だったが、それぞれビジネスクラス以上のホライゾンカフェと、一般レストランに当時のまま使われている。ただし一般レストランの一画は、夜間の音楽ステージのためテーブルセットが間引かれているので、かなり混みあう。営業時間は朝と夕は 6~8 時、昼は 11~13 時。メニューは相変わらず、朝昼夕と変わり映えしない。

また元ブルーダイヤモンドとシステムが違うようで、ツーリストやメガバリューも一般的のレストランで弁当を受けとっており、営業開始時には 100 人以上の列が出来ていた。

⑧ カフェ、ラウンジ

カフェはプロムナードデッキの横にあるが、すぐ横がカラオケのため騒がしい。また元ブルーダイヤモンドと異なり、レストランが閉鎖的な作りのため手ぶらではくつろぎにくいため、船内で腰を降ろして休むスペースが少ない。

夜間はレストランの一画で、男女 3 人グループで歌があった。曲はすべて客のリクエストばかりで、フィリピン人のリクエストと思うが高橋真梨子の歌を歌詞なしで歌っていた。この船も、音楽が始まると船内中に聞こえてくる。

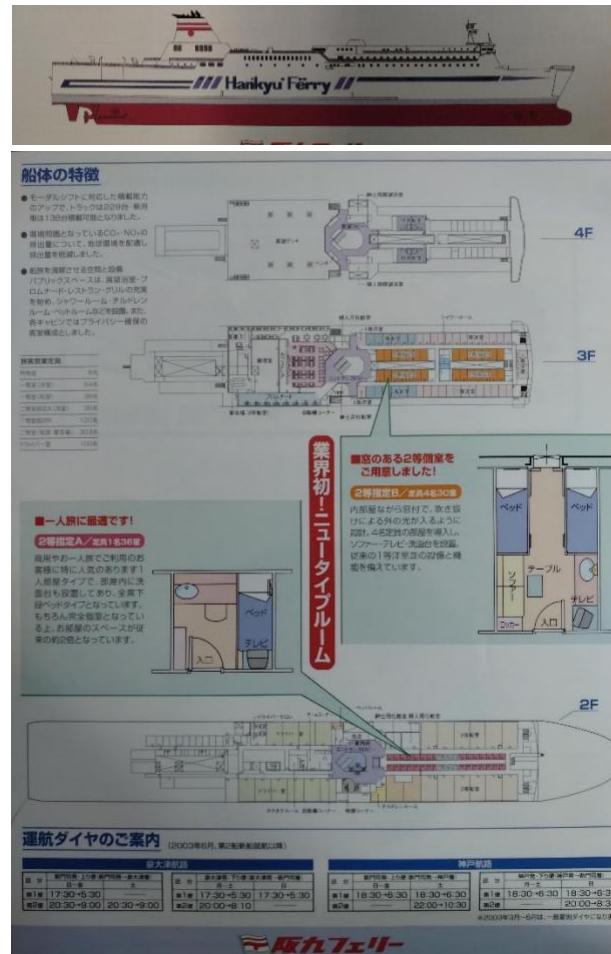
⑨ ショップ

土産物などを扱う店と、ジュースやカップラーメンや日用品を売る店がフロント横にある。土産物は日本のような地域の品はない。2GO のロゴが入ったブランケットが、土産に良かったが 2700 円。他にヘアーサロンがあった。

⑩ 航海

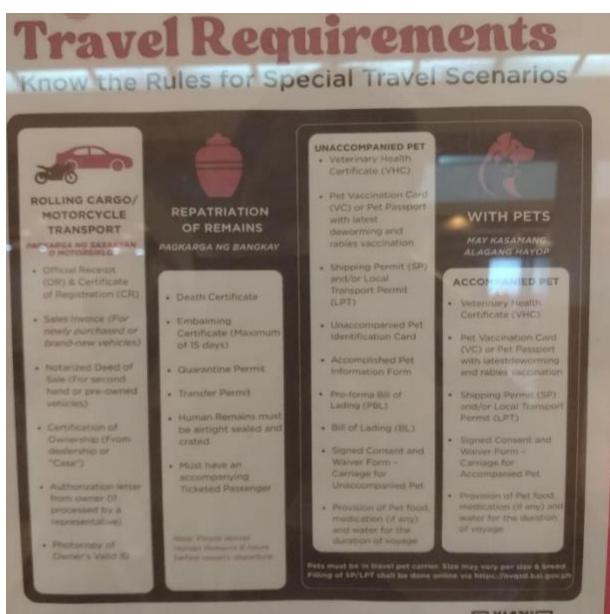
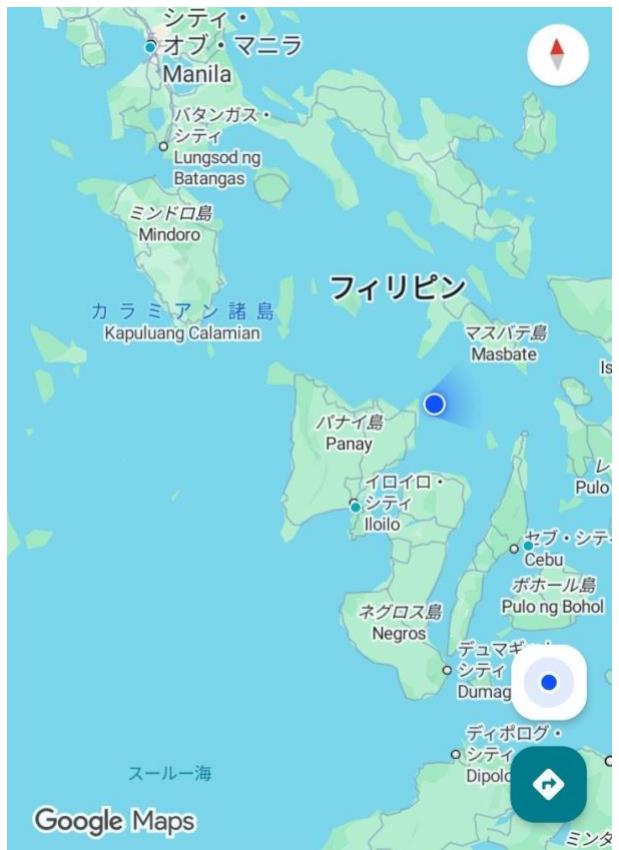
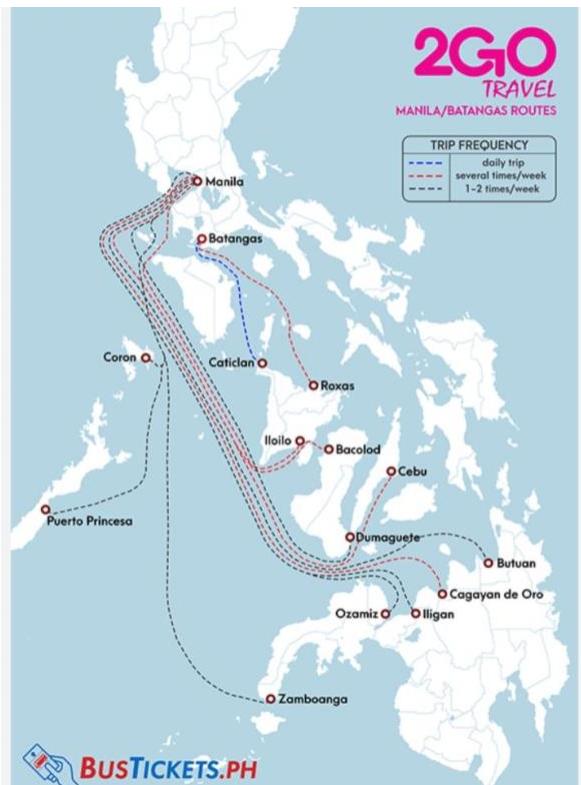
18 ノットくらいで航行していたが、まったく揺れを感じることなく、快適な航海だった。先日マニラ～バコロドに乗船した元ブルーダイヤモンドの反対の航路だったが、ルートはかなり異なった。

マニラ到着が深夜 1 時 30 分だったが、幸いシャトルバス（約 600 円で最低人数に達しないと運行中止）があった。マニラのフェリーターミナルのまわりは、夜間はあまり治安が良いとは言えない。船内放送は英語とタガログ語が流れる。



左側 現在 右側 阪九フェリー時代





上段右 二日目 10時ごろ

下段右 15時半ごろ、戦艦武蔵の沈没地点付近を航行

先日のマニラからイロイロへの航海はパナイ島の西からまわった。

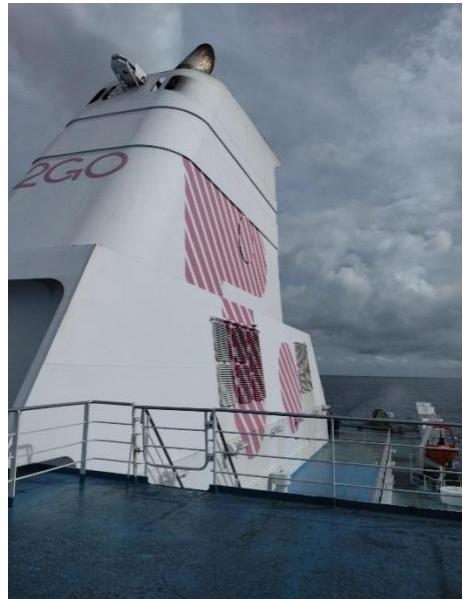


上段左 ステートルーム 上段右 ビジネスクラス

中段左 ビジネスクラス（元1人部屋）

中段右 ツーリスト（元ドライバールーム）

下段 メガバリュー



上記 5 枚 日本時代の展望デッキだった場所



以上 6 枚 日本時代の 3 階 プロムナードデッキ、吹抜け、

レストラン。上段右 コーヒーとケーキ 500 円くらい

下段 レストランメニューは、ケーキより主食の方が少ない



上段中段　日本時代の3階 グリル跡のホライゾンカフェ

朝昼夕食は同じような内容

下段　レストランでの夜の歌のステージ



以上 6 枚 日本時代の 2 階

